

【引受保険会社】

Global Partner/Net VA

グローバルパートナー/Net VA



redefining / standards

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3

* Global Partnerおよび Net VA は、弊社変額個人年金保険の販売名称です。

月次運用レポート

2012年10月

【利用する投資信託の委託会社】

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社



アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社は、マルチ・エキスパートによる資産運用業務をグローバルに展開するアクサ・インベストメント・マネージャーズの日本法人として、機関投資家の資金や投資信託の運用を行う資産運用会社です。1987年の日本進出以来、ファンダメンタルズ情報と最新の運用テクノロジーを結合することにより、一貫した投資哲学に基づく株式のアクティブ運用を行うとともに、債券、オルタナティブ投資商品といった幅広い投資家のニーズに応える高品質な運用商品を提供しています。

アライアンス・バーンスタイン* / アライアンス・バーンスタイン株式会社



米国ニューヨークに本社を置くアライアンス・バーンスタイン・エル・ピーを中核とするアライアンス・バーンスタインは、業界最大級のグローバルな調査体制を擁する世界有数の運用会社として、グロース株式、バリュー株式、債券、ブレンド戦略など、幅広い資産運用サービスや商品を提供しています。

アライアンス・バーンスタイン株式会社は、アライアンス・バーンスタインの日本拠点で、1986年(アライアンス・キャピタル・マネジメント・ジャパン・インク 東京支店の設立)以来、個人投資家や機関投資家の皆様に幅広い資産運用サービスや商品を提供しています。

*アライアンス・バーンスタインには、アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーとその傘下の関連会社を含みます。

- ・ アクサ生命保険株式会社の「変額個人年金保険」は、特別勘定で運用を行う保険商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・ 当資料は、アクサ生命保険株式会社の「変額個人年金保険」の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
- ・ 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- ・ 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・ 商品内容の詳細については「契約締結前交付書面(契約概要/注意喚起情報)(*)」、「リファレンスブック」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をあわせてご覧ください。
- ・ 当資料に記載されている各表にある金額、比率、資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等していますので、合計等と合致しないことがあります。

* 金融商品取引法の2007年9月30日完全施行により配布を開始しております。

変額個人年金保険

特別勘定の月次運用レポート (2012年10月)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・当ページは、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき、アクサ生命保険株式会社が作成し提供するものです。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その正確性・完全性については、これを保証するものではありません。

運用環境 [2012年10月]

【日本株式市場】

日本株式市場は、上昇し、TOPIX(東証株価指数)は前月末比+0.67%上昇の742.33ポイントで終了しました。

上旬は、IMF(国際通貨基金)の世界経済成長率見通しの下方修正などを背景に、国内外の景気先行き不透明感が高まったことなどから下落しました。しかし中旬以降は、米国大手格付会社がスペインの国債格付けを投資適格に据え置いたことなどが好感され、主要通貨に対して円安が進んだことなどから上昇し、また、日銀の金融緩和期待も上昇要因となりました。下旬には、企業業績の下方修正が日米で相次いだことや、日銀の追加金融緩和策が予想の範囲内にとどまったことなどから、軟調に推移して月末を迎えました。

業種別(東証33業種)では、海運市況の底打ち期待から「海運業」(前月末比+5.78%)が最も上昇した一方、配当の減額が懸念される「電気・ガス業」(同▲6.10%)が最も下落しました。

【外国株式市場】

米国株式市場は、月前半は、9月のISM(全米供給管理協会)製造業景況指数など好調な経済指標が発表されたことなどから、上昇して始まりましたが、その後は、IMFの世界経済成長率見通しの下方修正などから下落に転じました。月後半は、住宅着工件数など経済指標が改善され、一時上昇する場面もありましたが、市場予想を下回る企業決算などを受けて下落し、ダウは前月末比▲2.54%下落の13,096.46ドルで終了しました。

欧州株式市場は、月前半は、9月末のスペインの銀行へのストレステストの結果などから上昇して始まりましたが、その後、IMFが世界経済成長率見通しの下方修正をしたことなどから下落しました。月後半は、スペインの国債格付けが投資適格に据え置かれたことなどから上昇しましたが、EU(欧州連合)首脳会合でスペイン救済について協議されなかったことなどから下落しました。月末にかけては、ギリシャ追加支援への期待の高まりなどから、上昇基調で月末を迎えました。市場別騰落率は、英FT100が前月末比+0.71%上昇、仏CAC40が同+2.22%上昇、独DAXが同+0.62%上昇となりました。

【日本債券市場】

日本債券市場は、月前半は、日本や中国の経済指標の悪化やIMFの世界経済成長率見通しの下方修正などを受けて、金利は低下(価格は上昇)基調で推移しました。月後半は、米国の好調な経済指標の発表やスペインの国債格付けが投資適格に据え置かれたことを受け、円安が進んだことなどから上昇(価格は下落)に転じました。しかしその後、企業業績の下方修正が日米で相次いだことや日銀の追加金融緩和策が市場予想の範囲内にとどまったことなどから低下(価格は上昇)基調で月末を迎え、新発10年国債利回りは、0.775%となりました(前月末は0.765%)。

日銀は、政策金利を据え置き、年0.1%程度を維持しました。無担保コール(翌日物)は0.1%程度の水準で推移しました。

【外国債券市場】

米国債券市場は、月前半は、9月の失業率が低下するなど好調な経済指標の発表などを受けて、金利は上昇(価格は下落)して始まりましたが、その後、IMFが世界経済成長率見通しを下方修正したことなどから低下(価格は上昇)しました。月後半は、CPI(消費者物価指数)や住宅着工件数など経済指標に改善が見られたことなどから、金利は上昇(価格は下落)する局面もありましたが、米東海岸を襲ったハリケーンの経済に対する悪影響への懸念から低下(価格は上昇)基調で月末を迎え、米10年国債利回りは、月末は1.690%となりました(前月末は1.634%)。

欧州債券市場は、月前半は、スペインがいずれ救済申請を行うとの期待などから、独債の金利は上昇(価格は下落)した後、IMFが世界経済成長率見通しを下方修正したことなどから低下(価格は上昇)しました。月後半は、スペインの国債格付けが投資適格に据え置かれたことなどから大幅に上昇(価格は下落)しましたが、スペイン地方政府5州の格下げや同国実体経済悪化を示唆する指標などから金利は低下(価格は上昇)し、独10年国債利回りは、月末には1.462%となりました(前月末は1.442%)。

FRB(米連邦準備制度理事会)は、FF(フェデラル・ファンド)金利の誘導目標を据え置き、年0.0~0.25%を維持しました。ECB(欧州中央銀行)は政策金利を年0.75%で維持しました。

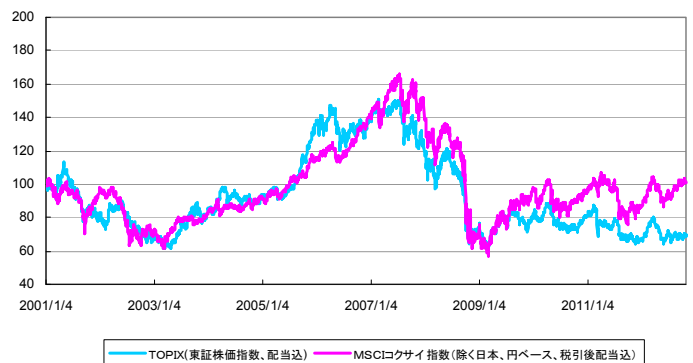
【外国為替市場】

米ドル/円相場は、月前半、ISM製造業景況指数が市場予想を上回るなど好調な経済指標から、米ドルが上昇しました。月後半も、9月の小売売上高や住宅着工件数など経済指標が市場予想を上回ったことや、日銀が追加金融緩和策を決定するとの観測などから、上昇しました。円は対ドルで前月末比2円06銭(2.65%)円安ドル高の1ドル=79円66銭となりました。

ユーロ/円相場は、ECB総裁による国債購入についての発言などを好意して、ユーロは上昇した後、ドイツの景気減速懸念などから一時下落する局面もありましたが、スペインが金融支援要請に踏み切るとの観測などから再度上昇しました。月後半は、スペイン国債格付けが投資適格に据え置かれたことなどを受けてユーロは上昇しましたが、米企業の業績悪化などから軟調に推移し、円は対ユーロで前月末比3円05銭(3.04%)円安ユーロ高の1ユーロ=103円29銭となりました。

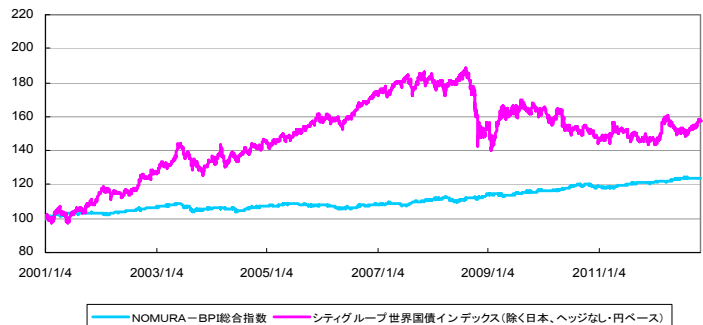
日本と外国の株式市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。

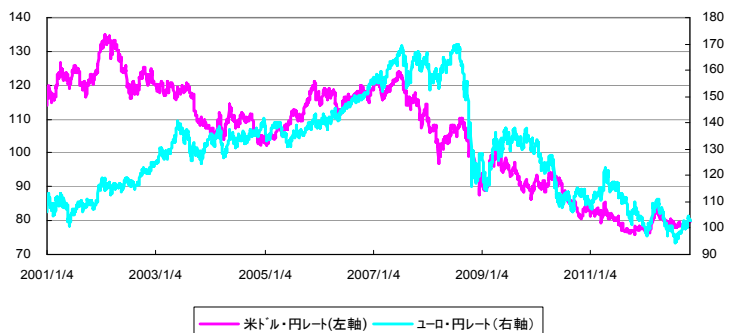


日本と外国の債券市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



外国為替市場の推移



出所: 株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

変額個人年金保険

特別勘定の月次運用レポート (2012年10月)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の種類と運用方針について

特別勘定名	基本資産 配分比率	運用方針	利用する投資信託	
			投資信託名	委託会社
ライフ・ソリューション30	株式 30%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の30%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定型(B) (適格機関投資家私募)	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
	債券 70%			
ライフ・ソリューション50	株式 50%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の50%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定成長型(B) (適格機関投資家私募)	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
	債券 50%			
ライフ・ソリューション70	株式 70%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の70%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 成長型(B) (適格機関投資家私募)	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
	債券 30%			
日本株式	日本株式 100%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に積極的に投資します。	アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド(B) (適格機関投資家私募)	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
世界株式	世界株式 100%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界各国(日本を含む)の株式を投資対象に成長の可能性が高いと判断される「セクター」の中から、成長性が高いと思われる銘柄に投資し、信託財産の成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。実質組入れ外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズH(為替ヘッジあり)	アライアンス・バーンスタイン株式会社
世界債券 (注1)	世界債券 100%	主として多種通貨建の投資適格格付確定利付証券に投資し、利息、配当収益、割引債券における償還差益および元本の変動等をもって、信託財産の長期的な成長を図ることをめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。	アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・ポートフォリオ(クラスI受益証券)	アライアンス・バーンスタイン・エル・ビー
マネープール	短期金融資産 100%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として円建ての短期公社債や短期金融商品に投資し、安定した収益の確保をめざします。	アクサ ローゼンバーグ・日本円マネープール・ファンド(B) (適格機関投資家私募)	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

※ 特別勘定の種類、運用方針および委託会社等の運用協力会社は、将来変更されることがあります。

※ 特別勘定には、各種支払等に備え、一定の現金、預金等を保有することがあります。

(注1) 当特別勘定で利用する投資信託の運用方針が変更されるため、2012年12月14日付けで、運用方針が同じであり、また運用関係費が現在より低い下記の投資信託に変更いたします。

	変更前	変更後
投資信託	アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・ポートフォリオ(クラスI受益証券)	アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンドⅡ・ポートフォリオ(クラスS1受益証券)
運用関係費 (管理報酬等)	年率0.650%程度	年率0.460%程度

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

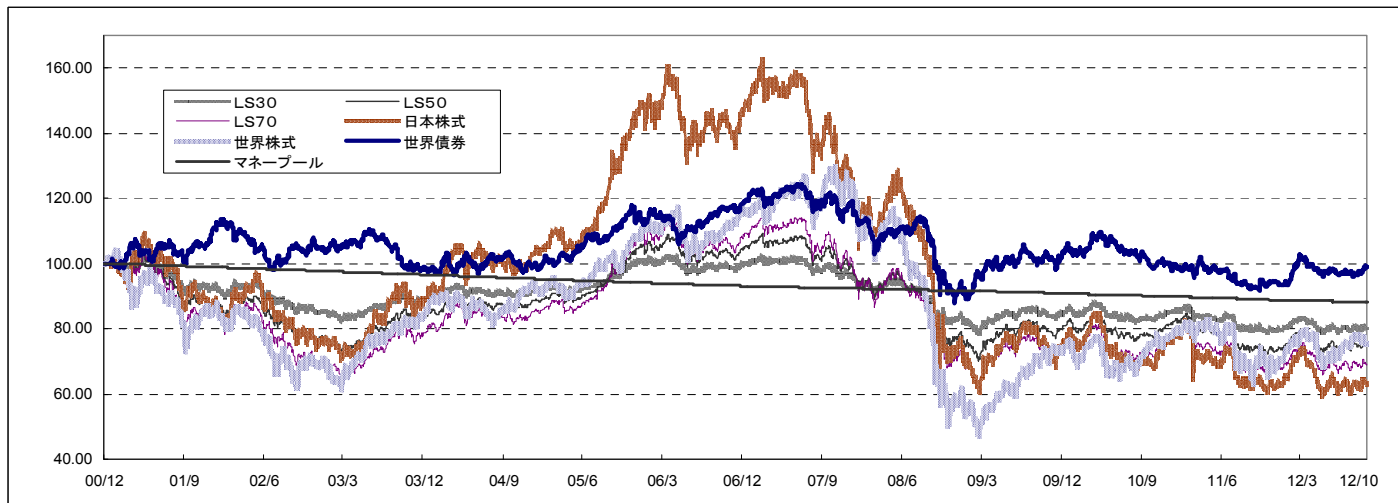
変額個人年金保険 特別勘定の月次運用レポート (2012年10月)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の運用状況 [2012年10月 末日現在]

■特別勘定のユニットプライスの推移

※ 特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



ライフ・ソリューション30			
ユニットプライス		騰落率 (%)	
2012年10月末	80.14	過去1ヵ月	0.35
2012年9月末	79.86	過去3ヵ月	0.46
2012年8月末	79.44	過去6ヵ月	▲ 2.14
2012年7月末	79.77	過去1年	▲ 0.53
2012年6月末	80.60	過去3年	▲ 5.23
2012年5月末	79.34	設定来	▲ 19.85

ライフ・ソリューション50			
ユニットプライス		騰落率 (%)	
2012年10月末	75.11	過去1ヵ月	0.66
2012年9月末	74.62	過去3ヵ月	1.01
2012年8月末	73.92	過去6ヵ月	▲ 3.06
2012年7月末	74.36	過去1年	▲ 0.07
2012年6月末	75.57	過去3年	▲ 6.03
2012年5月末	73.59	設定来	▲ 24.88

ライフ・ソリューション70			
ユニットプライス		騰落率 (%)	
2012年10月末	69.40	過去1ヵ月	0.93
2012年9月末	68.76	過去3ヵ月	1.52
2012年8月末	67.84	過去6ヵ月	▲ 4.01
2012年7月末	68.35	過去1年	0.19
2012年6月末	69.86	過去3年	▲ 7.16
2012年5月末	67.27	設定来	▲ 30.60

日本株式			
ユニットプライス		騰落率 (%)	
2012年10月末	63.29	過去1ヵ月	2.01
2012年9月末	62.04	過去3ヵ月	1.62
2012年8月末	61.01	過去6ヵ月	▲ 7.66
2012年7月末	62.28	過去1年	▲ 2.56
2012年6月末	64.77	過去3年	▲ 16.09
2012年5月末	61.10	設定来	▲ 36.70

世界株式			
ユニットプライス		騰落率 (%)	
2012年10月末	75.45	過去1ヵ月	▲ 2.15
2012年9月末	77.11	過去3ヵ月	2.10
2012年8月末	74.39	過去6ヵ月	▲ 3.56
2012年7月末	73.90	過去1年	1.52
2012年6月末	70.18	過去3年	6.10
2012年5月末	70.49	設定来	▲ 24.54

世界債券			
ユニットプライス		騰落率 (%)	
2012年10月末	98.85	過去1ヵ月	2.65
2012年9月末	96.30	過去3ヵ月	2.28
2012年8月末	97.40	過去6ヵ月	▲ 0.91
2012年7月末	96.65	過去1年	4.80
2012年6月末	97.51	過去3年	▲ 4.14
2012年5月末	96.91	設定来	▲ 1.15

※ 特別勘定のユニットプライスは、2000年12月18日のプライスを100.00として計算しています。
 ※ 騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。
 ※ 各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページ(下記参照)、
 およびインターネット対応の携帯電話 (<https://online.axa.co.jp/ClientWeb/mobile.jsp>)にて各営業日に
 ご確認いただくことができます。

マネーパール			
ユニットプライス		騰落率 (%)	
2012年10月末	88.17	過去1ヵ月	▲ 0.09
2012年9月末	88.25	過去3ヵ月	▲ 0.22
2012年8月末	88.31	過去6ヵ月	▲ 0.43
2012年7月末	88.36	過去1年	▲ 1.00
2012年6月末	88.44	過去3年	▲ 3.08
2012年5月末	88.49	設定来	▲ 11.83

■特別勘定資産の内訳

項目	ライフ・ソリューション30		ライフ・ソリューション50		ライフ・ソリューション70	
	金額(千円)	比率 (%)	金額(千円)	比率 (%)	金額(千円)	比率 (%)
現預金・その他	14,716	0.6	34,941	0.6	12,772	0.4
その他有価証券	2,575,640	99.4	5,470,563	99.4	3,046,021	99.6
合計	2,590,357	100.0	5,505,505	100.0	3,058,794	100.0

項目	日本株式		世界株式		世界債券		マネーパール	
	金額(千円)	比率 (%)	金額(千円)	比率 (%)	金額(千円)	比率 (%)	金額(千円)	比率 (%)
現預金・その他	70,138	2.6	5,347	0.2	18,842	0.9	51,685	13.8
その他有価証券	2,629,160	97.4	2,171,093	99.8	2,174,520	99.1	323,116	86.2
合計	2,699,299	100.0	2,176,441	100.0	2,193,363	100.0	374,801	100.0

※ 各特別勘定で利用している国内投資信託並びに外国投資信託は、いずれも「その他有価証券」の項目に含まれています。
 ※ 金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

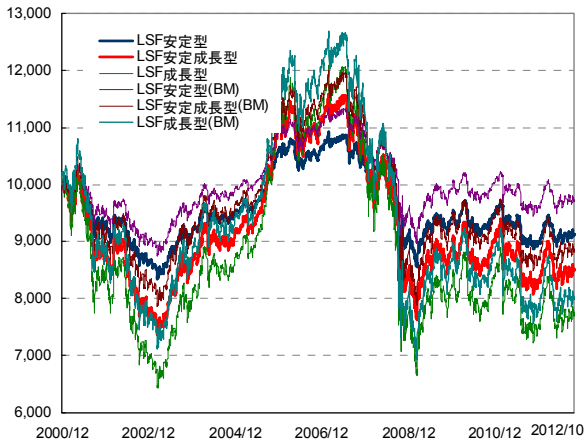
アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

変額個人年金保険 特別勘定の月次運用レポート (2012年10月)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- ・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定 ライフ・ソリューション30・50・70 [2012年10月 末日現在]

■当投資信託の基準価額の推移



■利用する投資信託について

- 【投資信託名】 LS30 ⇒ アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定型(B) (適格機関投資家私募)
LS50 ⇒ アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定成長型(B) (適格機関投資家私募)
LS70 ⇒ アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 成長型(B) (適格機関投資家私募)

【委託会社】

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の30%・50%・70%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

※ 当投資信託は、主として

- アクサ ローゼンバーグ・日本株式マザー・ファンド受益証券(適格機関投資家私募)、
- アクサ ローゼンバーグ・米国株式マザー・ファンド受益証券(適格機関投資家私募)、
- アクサ ローゼンバーグ・欧州株式マザー・ファンド受益証券(適格機関投資家私募)、
- アクサ ローゼンバーグ・日本債券マザー・ファンド受益証券(適格機関投資家私募)、
- アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・マザー・ファンド受益証券(適格機関投資家私募)に投資します。

- * LS: 特別勘定 ライフ・ソリューション
- * LSF: アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド

※ 投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を10,000として指数化しています。

■当投資信託の騰落率

	過去1か月	過去3か月	過去6か月	過去1年	過去3年	設定来
LSF安定型	0.45%	0.77%	▲1.56%	0.67%	▲1.81%	▲8.61%
BM	0.15%	0.49%	▲1.39%	0.55%	▲0.84%	▲2.57%
差	0.31%	0.28%	▲0.18%	0.12%	▲0.96%	▲6.04%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を起点として計算しています。

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

※ 「BM」とは、合成ベンチマークを指します。合成ベンチマークの組合せの比率は以下のとおりです。

	過去1か月	過去3か月	過去6か月	過去1年	過去3年	設定来
LSF安定成長型	0.76%	1.32%	▲2.48%	1.15%	▲2.60%	▲14.80%
BM	0.22%	0.75%	▲2.54%	0.35%	▲3.09%	▲11.24%
差	0.54%	0.57%	0.05%	0.80%	0.50%	▲3.56%

	過去1か月	過去3か月	過去6か月	過去1年	過去3年	設定来
LSF成長型	1.03%	1.84%	▲3.45%	1.40%	▲3.82%	▲22.40%
BM	0.26%	1.00%	▲3.63%	0.10%	▲5.43%	▲19.66%
差	0.77%	0.83%	0.18%	1.30%	1.61%	▲2.74%

■当投資信託の資産配分比率

	基本資産配分	LSF安定型
日本株式	24.00%	26.23%
米国株式	3.00%	4.51%
欧州株式	3.00%	2.87%
日本債券	30.00%	30.51%
短期金融資産等	40.00%	35.87%
合計	100.00%	100.00%

	基本資産配分	LSF安定成長型
日本株式	40.00%	42.85%
米国株式	5.00%	6.65%
欧州株式	5.00%	5.05%
日本債券	25.00%	25.27%
短期金融資産等	25.00%	30.17%
合計	100.00%	100.00%

	LSF安定型	LSF安定成長型	LSF成長型
東証株価指数(TOPIX) ¹⁾	24.00%	40.00%	55.00%
S&P500種株価指数 ²⁾ (為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース)	3.00%	5.00%	7.50%
MSCI欧州株価指数 ³⁾ (為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース)	3.00%	5.00%	7.50%
日興債券パフォーマンス・インデックス (総合 ⁴⁾ 、中期3年以上7年未満)	30.00%	25.00%	17.50%
日本円無担保コールオーバーナイト物レート ⁵⁾ (より日々運用したときに得られる投資収益を指数化したもの)	40.00%	25.00%	12.50%

・比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

	基本資産配分	LSF成長型
日本株式	55.00%	57.38%
米国株式	7.50%	9.07%
欧州株式	7.50%	7.52%
日本債券	17.50%	17.42%
短期金融資産等	12.50%	8.61%
合計	100.00%	100.00%

※ 各資産の投資信託欄は、原則、当投資信託における各マザー・ファンド保有率を記載しております。(短期金融資産等については、当投資信託で保有する現金等も含んでおります。)

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は、LSF30(安定型)、LSF50(安定成長型)、LSF70(成長型)それぞれ、前月末比+0.45%、+0.76%、+1.03%となりました。一方、ベンチマークの騰落率は、前月末比+0.15%、+0.22%、+0.26%となり、ベンチマーク対比+0.31%、+0.54%、+0.77%となりました。

世界的な景気減速懸案が続く中で、10月は米国で一部の経済指標に明るい兆しが見られ、月前半、9月のISM製造業指数が4ヶ月ぶりに50以上となるなど改善が見られ、9月の失業率が7.8%と約4年ぶりの低水準となり、これらが好感され株価は上昇しました。しかし、その後、7~9月期の企業決算においてIT・ハイテク関連企業を中心に失望的な内容だったことなどから株価は軟調に推移しました。11月の米大統領選挙を控え、減税の失効と歳入の削減が同時に起こる「財政の崖」と呼ばれる問題が年末に迫っており景気へのマイナスの影響が憂慮されていますが、大統領選の結果に関らず何らかの政治的な策がとられて米景気の後退リスクは避けられるものとみられています。日本では月末にかけて対米ドルで円安が進んだこと、さらに日銀の金融緩和期待の高まりなどを背景に、10年国債利回りは上昇しました。

当月の当投資信託は、米国株式への配分効果が足を引っ張ったものの、日本株式の銘柄選択が奏功し、3ファンドともベンチマークを上回る結果となりました。

世界的に景気減速傾向がみられる中で、世界の中央銀行が積極的に金融緩和に向けて舵を切ることで世界景気の下支えになるとの期待が高まっています。委託会社は今後の当投資信託について、ベンチマークに対して債券への配分比率を低めるとともに、株式の配分比率を高める予定です。

※ 将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・5ページ~9ページに記載されている「*1~*7」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

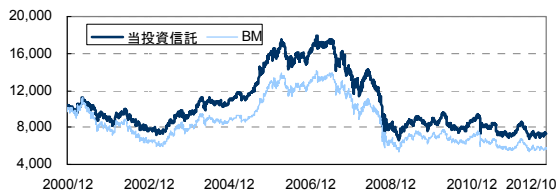
変額個人年金保険

特別勘定の月次運用レポート (2012年10月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定 日本株式 [2012年10月 末日現在]

■当投資信託の基準価額の推移



※ 投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を10,000として指数化しています。

■当投資信託の騰落率

	過去1か月	過去3か月	過去6か月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	2.13%	1.89%	▲1.72%	▲1.47%	▲12.90%	▲26.25%
BM	0.67%	0.82%	▲1.70%	▲2.84%	▲17.03%	▲42.42%
差	1.47%	1.08%	0.49%	1.37%	4.13%	16.17%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を起点として計算しています。

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。

※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、東証株価指数(TOPIX)¹⁾です。

・ 比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○マザーファンド受益証券の詳細情報

●業種別構成比率

業種	マザーファンド
1 銀行業	12.79%
2 輸送用機器	10.44%
3 卸売業	10.30%
4 情報・通信業	9.23%
5 電気機器	8.55%
6 陸運業	8.19%
7 小売業	5.87%
8 化学	5.23%
9 その他業種	24.94%
10 現金等	4.46%
合計	100.00%

○市場別構成比率

市場	マザーファンド
1 東京証券取引所第一部	93.00%
2 大阪証券取引所第一部	2.36%
3 東京証券取引所第二部	0.10%
4 大阪証券取引所第二部	0.05%
5 名古屋証券取引所第二部	0.01%
6 ジャスダック証券取引所	0.01%
7 名古屋証券取引所第一部	0.01%
8 現金等	4.46%
合計	100.00%

○組入上位10銘柄

銘柄	業種	マザーファンド
1 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	4.23%
2 本田技研工業	輸送用機器	3.89%
3 三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	3.47%
4 日本電信電話	情報・通信業	3.35%
5 東日本旅客鉄道	陸運業	2.93%
6 KDDI	情報・通信業	2.87%
7 住友商事	卸売業	2.58%
8 大塚ホールディングス	医薬品	2.45%
9 東海旅客鉄道	陸運業	2.42%
10 三井物産	卸売業	2.40%
合計		30.59%
組入銘柄数		125銘柄

※ 上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比+2.13%となりました。一方、ベンチマークである東証株価指数(TOPIX)の騰落率は、前月末比+0.67%となりました。当月の日本株式市場は、市場全体に対し比較的堅調であった銘柄が相対的に下落する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で少なめに保有していたことはプラスへ寄与しました。委託会社独自の業種別ではベンチマーク対比で、下落した電力を少なめに保有していたことや上昇したコンピューターを多めに保有していたことはプラスに寄与しましたが、下落した移動体通信や総合商社を多めに保有していたことはマイナスに寄与しました。一方、個別銘柄ではベンチマーク対比で、下落した第一三共(4568)やキリンホールディングス(2503)を多めに保有していたことはマイナスに寄与しましたが、上昇したイー・アクセス(9427)を多めに保有していたことや下落したソフトバンク(9984)を少なめに保有していたことはプラスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、積極的に投資することで、ベンチマークを中・長期的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、独自に開発したシステムティックなモデル(定量分析)を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※ 将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・ 表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・ 5ページ~9ページに記載されている「*1~*7」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

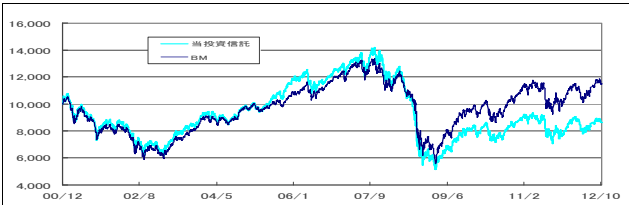
変額個人年金保険

特別勘定の月次運用レポート (2012年10月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定 世界株式 [2012年10月 末日現在]

■当投資信託の基準価額の推移



※ 投資信託の設定日(2000年12月21日)を10,000として指数化しています。

■当投資信託の騰落率

	過去 1か月	過去 3か月	過去 6か月	過去 1年	過去 3年	設定来
投資信託	▲2.07%	2.43%	▲2.99%	2.74%	10.17%	▲13.70%
BM	▲1.27%	4.48%	2.10%	6.63%	24.68%	15.13%
差	▲0.80%	▲2.05%	▲5.09%	▲3.89%	▲14.50%	▲28.83%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)を起点として計算しています。

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。

※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、MSCIワールド・インデックス®(税引前配当金込/為替ヘッジあり/円ベース)です。

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

○ 国/地域別構成比率

	国名	マザーファンド
1	アメリカ	52.46%
2	イギリス	12.35%
3	スイス	5.82%
4	フランス	5.00%
5	日本	4.35%
6	ベルギー	2.75%
7	香港	2.73%
8	カナダ	1.99%
9	その他の国/地域	10.61%
10	現金等	1.94%
合計		100.00%

○ セクター別構成比率

	セクター	マザーファンド
1	情報技術	21.97%
2	一般消費財・サービス	15.03%
3	金融	12.57%
4	資本財・サービス	11.85%
5	生活必需品	10.84%
6	エネルギー	10.59%
7	ヘルスケア	10.13%
8	素材	5.08%
9	その他のセクター	0.00%
10	現金等	1.94%
合計		100.00%

○ 組入上位10銘柄

	銘柄	国名	セクター	業態	マザーファンド
1	アップル	アメリカ	情報技術	パソコン	3.98%
2	ブリティッシュ・アメリカン・タバコ	イギリス	生活必需品	たばこ	2.85%
3	アンハイザー・ブッシュ・インベプ	ベルギー	生活必需品	ビール	2.36%
4	ダナハー	アメリカ	資本財・サービス	工具・通信部品	2.20%
5	ネスレ	スイス	生活必需品	食品・飲料	2.14%
6	VISA	アメリカ	情報技術	クレジットカード	1.99%
7	ウォルト・ディズニー	アメリカ	一般消費財・サービス	テーマパーク、娯楽映画	1.87%
8	クアルコム	アメリカ	情報技術	通信システム	1.76%
9	AIAグループ	香港	金融	保険	1.76%
10	グーグル	アメリカ	情報技術	インターネット	1.72%
合計					22.63%
組入銘柄数					115銘柄

※ 上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比▲2.07%となりました。一方、ベンチマークであるMSCIワールド・インデックス(税引前配当金込/為替ヘッジあり/円ベース)の騰落率は前月末比▲1.27%となりました。

ベンチマークとの比較では、セクター配分、銘柄選択共にマイナス要因となりました。セクター配分では、情報技術セクターのオーバーウェイトなどがマイナス要因となりました。また、情報技術セクターやエネルギー・セクターにおける銘柄選択が主なマイナス要因となりました。

当投資信託では、引き続き安定した成長が期待でき、健全な財務体質を有しながら、バリュエーションが妥当な水準にある銘柄を中心に情報技術セクターのオーバーウェイトを維持します。セクター内では、特にモバイル関連、半導体関連企業を注目しています。消費関連では、一般消費財・サービス・セクターや生活必需品セクターをオーバーウェイトとする一方、ヘルスケア・セクターはアンダーウェイトとする方針です。金融セクターでは、引き続き、成長及びパフォーマンスへの貢献が期待でき、金融規制による影響を受けにくい新興国の銀行・生保などをオーバーウェイトとし、先進国の銀行・不動産・損保などをアンダーウェイトとする方針です。また、世界的に経済成長が鈍化するリスクを考慮し、エネルギー関連では生産量拡大余地がある企業を、資本財や素材関連に関しては価格決定力を持つ企業を中心に組み入れていく方針です。

今後も、アナリストによる徹底した企業分析を通じて、成長が見込まれ、かつ株価水準が妥当な優良銘柄を選別する方針です。

※ 将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・5ページ~9ページに記載されている「*1~*7」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

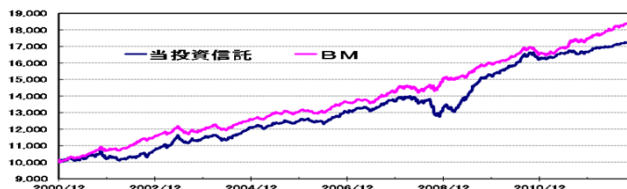
アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

変額個人年金保険 特別勘定の月次運用レポート (2012年10月)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- ・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定 世界債券 [2012年10月 末日現在]

■当投資信託の純資産価格の推移



※ 2000年12月21日を10,000として指数化しています。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	0.12%	0.68%	1.69%	3.55%	14.01%	126.92%
BM	0.28%	0.92%	3.18%	6.10%	15.95%	146.39%
差	▲0.16%	▲0.24%	▲1.49%	▲2.55%	▲1.94%	▲19.47%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(1996年11月20日)を起点として計算しています。

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。

※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、パークレイズ・グローバル総合インデックス⁷です。

・比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

■当投資信託の詳細情報

○ 国別構成比率

	国名	投資信託
1	アメリカ	30.78%
2	イギリス	11.98%
3	カナダ	10.57%
4	ドイツ	9.14%
5	日本	6.69%
6	オランダ	4.30%
7	フランス	3.54%
8	オーストラリア	3.26%
9	その他	15.77%
10	現金等	3.97%
合計		100.00%

○ 格付別構成比率

格付	投資信託
AAA	60.35%
AA	11.91%
A	18.86%
BBB	8.88%
BB	0.00%
合計	100.00%

注) 現金等はAAAに含まれます。

格付基準:

※ ムーディーズ社またはスタンダード&プアーズ(S&P)社のうち、いずれか高いほうを採用しています。

○ 債券種別資産構成比率

債券種別	投資信託
1 国債	38.17%
2 投資適格社債	27.78%
3 政府関連債	7.97%
4 カバードボンド	6.75%
5 インフレ連動債	4.45%
6 モーゲージ・パス・スルー証券	3.76%
7 国際機関債	2.51%
8 商業用不動産担保証券	2.09%
9 その他	2.55%
10 現金等	3.97%
合計	100.00%

○ 組入上位10債券種類

	銘柄	国名	格付		投資信託
			ムーディーズ	S&P	
1	アメリカ国債(2/15/15)	アメリカ	Aaa	AA+	6.97%
2	カナダ国債(6/1/15)	カナダ	Aaa	AAA	4.22%
3	カナダ国債(3/15/14)	カナダ	Aaa	AAA	3.55%
4	アメリカ国債(5/15/18)	アメリカ	Aaa	AA+	3.33%
5	アメリカ国債(8/15/20)	アメリカ	Aaa	AA+	3.29%
6	ドイツインフレ連動債(4/15/13)	ドイツ	Aaa	AAA	2.90%
7	日本国債(3/21/16)	日本	Aa3	AA-	2.88%
8	メキシコ国債(12/20/12)	メキシコ	Baa1	A-	2.79%
9	イギリス国債(6/7/21)	イギリス	Aaa	AAA	2.74%
10	日本国債(3/21/16)	日本	Aa3	AA-	2.54%
合計					35.21%

※ 上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

○ 通貨別構成比率

債券種別	投資信託
1 アメリカドル	99.02%
2 その他	0.98%
合計	100.00%

○ ポートフォリオの状況

	投資信託
平均デュレーション	2.63

※ 「平均デュレーション」とは、当ファンドの組入銘柄のデュレーションを平均したものです。債券価格の弾力性を示す指標として用いられ、金利の変化に対する債券価格の感応度を示します。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

当投資信託の騰落率は前月末比+0.12%、一方、ベンチマークであるパークレイズ・グローバル総合インデックスは前月末比+0.28%となりました。10月、当投資信託は、米国、英国、欧州の投資適格社債等における銘柄選択が主なマイナス要因となりました。国別配分では英国およびカナダへの高めの配分がマイナスに寄りましたが、日本への低めの配分によるプラスがこれをほぼ相殺しました。セクター配分は相対的パフォーマンスにプラスに寄りました。英国および米国の投資適格社債への高めの配分と米国モーゲージ・パス・スルー証券への低めの配分が奏功しました。米国は10月後半に発表された経済指標が予想を上回る内容だったことや、好調な企業決算が発表されたことなどを受けて、価格は下落(利回りは上昇)しました。月末にかけては、欧州債務危機が悪化するとの懸念が高まったことなどから、価格は上昇(利回りは低下)に転じました。

当投資信託ではボラティリティの低減に重点を置き、慎重な組み入れを維持しています。ベンチマークに比べて最も組み入れ比率を高めているのは、引き続き投資適格社債です。また、カバードボンドおよびCMBS(商業用不動産担保証券)への組み入れはやや高めとしています。

※ 将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・5ページ~9ページに記載されている「*1~*7」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

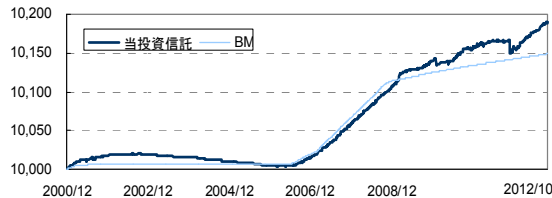
変額個人年金保険

特別勘定の月次運用レポート (2012年10月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知ください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定 マネープール [2012年10月 末日現在]

■当投資信託の基準価額の推移



※ 投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を10,000として指数化しています。

■利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・ファンド(B) (適格機関投資家私募)
【委託会社】 アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として円建ての短期公社債や短期金融商品に投資し、安定した収益の確保をめざします。

※ 当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・マザー・ファンド受益証券(適格機関投資家私募)に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1か月	過去3か月	過去6か月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	0.01%	0.09%	0.19%	0.22%	0.53%	1.88%
BM	0.01%	0.02%	0.04%	0.08%	0.26%	1.49%
差	0.00%	0.07%	0.14%	0.13%	0.28%	0.39%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を起点として計算しています。

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、日本円無担保コールオーバーナイト物レート⁵により日々運用したときに得られる投資収益を指数化したものです。

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

○資産構成

	修正デュレーション	マザー・ファンド
公社債	0.64年	50.33%
国債	1.60年	19.18%
地方債	0.00年	0.00%
特殊債・財投債	0.00年	0.00%
金融債	0.00年	0.00%
社債等	0.06年	31.15%
その他	0.00年	0.00%
短期資産等	0.36年	49.67%
CD		0.00%
CP		0.00%
T-Bill		49.42%
コールローン		0.25%
その他		0.00%
合計	0.51年	100.00%

○公社債の格付別構成比率

格付区分	マザー・ファンド
AAA	0.00%
AA	92.24%
A	7.76%
BBB	0.00%
BB以下(無格付含)	0.00%
合計	100.00%

格付基準 ※ 海外格付機関の格付を優先します。 ※ コールローンは格付別構成比率には含めていません。

※ 海外格付機関の格付取得の無い発行体は、国内格付機関の格付を採用します。

※ T-Bill等国債同等の無格付短期資産においては短期格付をP-1格とします。

※ T-Billに分類された1年未満の国債については「○公社債の格付別構成比率」に含めています。

○短期資産等の格付別構成比率

格付区分	マザー・ファンド
P-1	0.00%
P-2	0.00%
P-3	0.00%
無格付	0.00%
合計	0.00%

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比+0.01%、一方、ベンチマークである日本円無担保コールオーバーナイト物レートは前月末比+0.01%となりました。日本経済は9月の貿易統計を見ると、欧州や中国の景気減速に伴う需要減などの影響から輸出額が前年同月比▲10.3%と4ヶ月連続のマイナスとなり、貿易収支は3ヶ月連続の赤字となりました。9月の鉱工業生産は前月比▲4.1%と、3ヶ月連続のマイナスとなりました。9月の雇用統計は、失業率が4.2%と横ばいでしたが、有効求人倍率が0.81と3年2ヶ月ぶりに悪化に転じました。震災復興需要やエコカー補助金等の景気刺激の効果が弱まりつつあり、また中国の経済成長鈍化や日中間関係悪化等の影響により日本経済の減速傾向が明らかとなってきました。当月の債券市場は2年国債利回りは0.002%上昇の0.100%となりました。当月の当投資信託は償還を迎えた銘柄の代金で国債を買付けました。今後の当投資信託の運用方針として、年限の短い国債への投資で流動性を確保しつつ、質の高い社債へ投資して、安定した運用と利回りの向上をめざす方針です。

※ 将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。 ・5ページ～9ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、9ページに記載しています。

用語説明

- 「東証株価指数(TOPIX)」とは、東京証券取引所第一部に上場する国内株全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。東証株価指数(TOPIX)は、株式会社東京証券取引所(以下「東京証券取引所」)の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は東京証券取引所が有しています。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止、またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。
- 「S&P500種株価指数」とは、スタンダード・アンド・プアーズ社が公表している株価指数で、米国の主要500社によって構成されています。当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利はスタンダード・アンド・プアーズ社に帰属しています。S&P500種株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)は、S&P500種株価指数(米ドルベース)に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。
- 「MSCI欧州株価指数」とは、MSCI Inc.の算出する欧州株式市場の動きを示す指数です。MSCI欧州株価指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCI欧州株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)は、MSCI欧州株価指数(ユーロベース)に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。
- 「日興債券パフォーマンス・インデックス(総合)」とは、日興フィナンシャル・インテリジェンス株式会社が発表している、日本の債券市場の動きを表す指数です。国債、地方債、政府保証債、財投債、金融債、事業債などの円建て公募利付債で構成されています。対象となる債券は残存年数1年以上、残存額面10億円以上で、格付機関からBBB格相当以上の格付を取得している発行体に限られます。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はSMBC日興証券株式会社に帰属します。また、SMBC日興証券株式会社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「日本円無担保コールオーバーナイト物レート」について。コール市場とは、民間金融機関が短期的な手元資金の余剰や不足を調整するための市場をいいます。このコール市場において、金融機関間で、担保なしで、翌日に返済することを条件に、短期の資金を貸し・借りする取引に適用される金利を「無担保コールオーバーナイト物レート」といいます。
- 「MSCIワールド・インデックス」とは、MSCI Inc.が世界の先進国株式市場のパフォーマンスを測るために開発した指数で、各国の株式時価総額等をベースに算出されたものです。MSCIワールド・インデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCIワールド・インデックス(税引前配当金込/為替ヘッジあり/円ベース)は、MSCIワールド・インデックス(米ドルベース)をもとに、為替ヘッジにかかる費用相当分を考慮して委託会社が円ベースに換算したものです。
- 「パークレイズ・グローバル総合インデックス」は、パークレイズ・バンク・ピーエルシーおよび関連会社(パークレイズ)が開発、算出、公表を行うインデックスであり、世界の投資適格債券市場のパフォーマンスをあらわします。当該インデックスに関する知的財産権およびその他の一切の権利はパークレイズに帰属します。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

変額個人年金保険のリスク及び諸費用について ①

【投資リスクについて】

この保険は積立金額および年金額が特別勘定資産の運用実績に応じて変動(増減)するしくみの変額個人年金保険です。特別勘定資産の運用は、主として国内外の株式および公社債を主要投資対象とする投資信託を利用して運用され、株式および公社債の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあります。特別勘定資産の運用実績が積立金額に直接反映されますので、このリスクはご契約者に帰属し、ご契約者が損失を被ることがあります。運用実績によっては、ご契約を解約した場合の払い戻し金額等が一時払保険料等を下回る場合があります。特別勘定における資産運用の結果がご契約者の期待通りでなかった場合でも、当社または第三者がご契約者に何らかの補償・補填をすることはありません。

【諸費用について】

ご契約者などにご負担いただくこの保険の諸費用は、次のとおりです。

<年金支払開始日前>

●特別勘定のユニットプライス(単位価格)を計算する前にご負担いただく費用

項目	時期	費用	備考
契約初期費用 (増額費用)	特別勘定繰入前	保険料の 2.0%	保険料から契約初期費用として2.0%が控除された後の金額が積立金として特別勘定で運用されます。 (増額費用も同じ)
保険契約管理費 (積立金比例額)	毎日	特別勘定の積立金総額に対して 年率1.2%	当社の経費に充当されます。 (基本保険金額を死亡時に最低保証するための費用および災害死亡保険金のための費用を含みます。)

* 毎日その日の始めの特別勘定の積立金総額に年率1.2%の365分の1を乗じた金額を毎日その日の終わりの特別勘定の積立金総額から控除します。

●ご契約の内容と取引の内容による費用

特別勘定のユニットプライス(単位価格)を計算した後にご負担いただく費用は、次のとおりです。

項目	時期	費用	備考
保険契約管理費 (件数比例額)	月単位の契約応当日	毎月 100円	契約1件あたり毎月の契約応当日の前日の積立金の合計額から控除します。
積立金移転費用	移転時	<書面による移転申込みの場合> 1回目 1,500円 2回目以降は1回につき 2,300円 ^(*)	毎回の移転について積立金から控除します。
		<インターネットによる移転申込みの場合> 月1回の積立金の移転は 無料 2回目からは1回につき 800円 ^(*)	1か月に2回以上積立金の移転を行なう場合、2回目からの移転について積立金から控除します。
貸付利息	月単位の契約応当日 および 貸付金の返済時	貸付金額の年利 1.2%	貸付金制度を利用されたとき、月単位の契約応当日および貸付金の返済時に、積立金から徴収します。
解約控除	解約時	積立金額の 8.0%~0.8%	解約日が契約日または増額日より起算して10年未満の場合には、経過年数(1年未満切り上げ)に応じて、積立金額に対して解約控除率(8%から0.8%)を乗じた金額を積立金額から控除します。
	減額時	減額に相当する積立金額の 8.0%~0.8%	減額日が契約日または増額日より起算して10年未満の場合には、経過年数(1年未満切り上げ)に応じて、減額に相当する積立金額に対して解約控除率(8%から0.8%)を乗じた金額を減額に相当する積立金額から控除します。

(*) 月単位の契約応当日から翌月の契約応当日の前日までに積立金移転を行なった回数

※ 貸付制度は、ご契約が成立後、会社の定める範囲内で何回でも貸付を受けることができます。

※ 将来、上記の内容が変更になることがあります。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

変額個人年金保険のリスク及び諸費用について ②

●その他間接的にご契約者にご負担いただく運用関係の費用は、次のとおりです。

項目	時期	費用	備考
運用関係費	毎日	ライフ・ソリューション30 年率0.945%程度(税抜0.900%程度)	特別勘定が利用する投資信託の純資産額に対して控除いたします。
		ライフ・ソリューション50 年率1.050%程度(税抜1.000%程度)	
		ライフ・ソリューション70 年率1.155%程度(税抜1.100%程度)	
		日本株式 年率0.840%程度(税抜0.800%程度)	
		世界株式 年率0.8925%程度(税抜0.850%程度)	
		世界債券 年率0.650%程度 ^{*1 *3}	
		マネーボール 年率0.034125%～年率0.483000%程度 (税抜0.0325%～0.4600%程度) ^{*2}	

※ 運用関係費は、主に利用する投資信託の信託報酬率を記載しています。

信託報酬の他、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料及び消費税等の税金等の諸費用がかかりますが、これらの諸費用は運用資産額や取引量等によって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。また、各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの諸費用を間接的に負担することとなります。

これらの運用関係費は、運用手法の変更・運用資産額の変動等の理由により、将来変更される可能性があります。

*1 世界債券のみ、ルクセンブルグ籍の投資信託を使用しているため、管理報酬等を記載しております。

管理報酬等には、予め定率として決められている管理報酬および管理会社報酬が含まれます。

その他、お客様にご負担いただく手数料には、保管報酬、管理事務代行報酬、名義書換代行報酬、ルクセンブルグ大公国の法令に基づく税金等、有価証券の売買手数料、保有する有価証券の譲渡・償還益および配当やクーポンに対する源泉徴収税等の諸費用がかかりますが、運用資産額の取引量等によって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。

*2 マネーボールの運用関係費は、各月の前月最終5営業日における無担保コールオーバーナイト物レートの平均値に応じて毎月見直されます。

*3 当特別勘定で利用する投資信託の運用方針が変更されるため、2012年12月14日付けで、投資信託を変更いたします。

これに伴い、運用関係費が年率0.460%程度に変更となります。(詳細は3ページをご覧ください)

<年金支払開始日以後>

●年金支払開始日以後にご負担いただく費用

項目	時期	費用	備考
年金管理費	年単位の 契約応当日	支払年金額の1.0%	年金支払開始日以後、年単位の契約応当日に責任準備金から控除されます。

※ 年金管理費は、将来変更となる可能性があります。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>